

事例 10：株式会社五合（特許権を組み合わせた新事業検討）

知財権活用

新事業創出

ビジネスモデル検討

■ 知的財産経営実践の概要

解決
したい
課題

特許権を組み合わせた新事業検討

- 工場等における天井クレーンを安全に運用するための製品・システムを開発し、特許権や商標権を取得。
- 製品やサービスの展開にあたり、複数の特許権等にも守られる事業構造の検討や、他社連携の体制検討が課題。

専門家によるハンズオン支援

ハンズ
オン
支援

現の特許の組み合わせだけで新事業の競争力を維持できるか確認。新事業立ち上げに必要な知財対応事項を洗い出し。
訪問支援：3回

- 課題抽出（1回目）
- 製品やサービス案の内容と、取得特許の詳細を確認。（2回目）
- 新しいサービス事業の継続的な実施に向けて、保護すべき知財（競争力の源泉）を特定し、追加対応の必要性を検討。（3回目）

結果
・
成果

新事業における価値提供の源泉を特定。事業構造に応じた知財権の補充余地を確認。

今後の取組課題

- ✓ 事業構造に応じて知財権の補充が望ましい可能性が存在。
- ✓ 製品やサービスの導入効果を証明するデータ蓄積が求められる。
- ✓ 事業構造に応じて、特許ライセンスや販売代理の契約が必要。

■ 取組の詳細

- ・全国の工場で、天井クレーンの事故防止に向けた取り組みが潜在的な課題として存在。そこで、工場等の天井クレーンを安全に運用する製品・システムを開発した。
- ・提供するサービス領域が1つではなく複数考えられるなか、現有の知財権で独自の競争力を維持できるか、知財ビジネス評価書（知財金融促進事業）を活用しつつ、権利の詳細内容について確認を行った。
- ・複数の物品（コントローラー、指示器）やシステムが競争力の源泉となりうる事が予想される中、ハード・ソフト、公知・非公知の知財を組み合わせ、物品販売だけでなく、サービス提供までを視野に入れた事業の内容・構造を検討。モノの製造・販売に加え、サービス事業も手掛けることを目指す。



■ 企業の声

開発や特許申請の段階から具体的なサービス像をイメージし、特許権以外の知財も組み合わせることで事業の競争力を高めていくことを細かく検討することができた。従来より高度な知財戦略を検討する体験を、チームとして経験することができたと振り返る。

■ 企業概要

業種	製造業（完全無機塗料「ゼロ・クリア」等の製造販売・加工、天井クレーンコントローラ安全システム「zen」の製造販売、等）				
住所	愛知県春日井市		URL	http://www.gogoh.jp/	
創業	2003年5月	従業員数	10人	資本金	2,500万円

■ 支援専門家（回数）

支援コーディネータ
中小企業診断士（3）
同行専門家
弁理士・弁護士（2）